静嘉堂文庫美術館（静嘉堂@丸の内）

2024年 2月～8月展覧会予定

SEIKADO BUNKO ART MUSEUM
静嘉堂@丸の内

〒100-0005 東京都千代田区丸の内2丁目1－1明治生命館1F
TEL.050-5541-8600（ハローダイヤル）
開館時間：10:00～17:00（金曜日は～18:00）（入館は閉館の30分前まで）
休館日：毎週月曜日（祝日の場合は開館し翌火曜日休館） 展示替え期間　年末年始など
入館料：一般1,500円/大高生1,000円/中学生以下無料/障がい者手帳提示の方 700円（同伴者1名無料）
※作品は所蔵館クレジットの記載があるもの以外、すべて静嘉堂文庫美術館蔵です。

岩﨑家のお雛さま　2024年2月17日（土）～3月31日（日）

五世大木平藏《岩﨑家雛人形》のうち女雛（左）、三人官女（右）
昭和時代初期、20世紀

五世大木平藏《木彫彩色御所人形》のうち
「宝船曳」昭和14年（1939）

五世大木平藏《御所人形　お福の花見》
昭和時代、20世紀　丸平文庫蔵
※岩﨑家旧蔵品

重要文化財　野々村仁清
《色絵吉野山図茶壺》江戸時代、17世紀

３月３日は雛祭り。今年も丸の内で、かわいらしいお雛さまやお人形をご覧いただきます。
三菱第四代社長・岩﨑小彌太（1879～1945）が孝子夫人（1888～1975）のために誂えた雛人形は、京都の人形司・丸平大木人形店（丸平）によるものです。内裏雛は、白くつややかで丸い顔が愛らしい稚児雛です。岩﨑家の替紋である花菱文をあしらった雛道具は精巧な作りで、実物と見まがうばかりの出来栄えです。
本展では、小彌太の還暦を祝して丸平に制作させた「木彫彩色御所人形」（五世大木平蔵製、1939年）のほか、丸平文庫が所蔵する岩﨑家旧蔵「御所人形 お福の花見」も展示。
岩﨑家ゆかりの豪華な打掛も初公開します。

静嘉堂 SEIKADO BUNKO ART MUSEUM 静嘉堂@丸の内

静嘉堂文庫竣工100年・特別展

画鬼 河鍋暁斎×鬼才 松浦武四郎

―「地獄極楽めぐり図」からリアル武四郎涅槃図まで　2024年4月13日（土）～6月9日（日）

重要文化財　河鍋暁斎
《武四郎涅槃図》明治19年
（1886）松浦武四郎記念館蔵

《大首飾り》
縄文時代～近代

河鍋暁斎《地獄極楽めぐり図》明治2～5年（1869～72）
※会期中場面替えあり

絵師・河鍋暁斎と、探検家で好古家、著述家、北海道の名付け親である松浦武四郎は、幕末から明治期に活躍し、お互いを知る仲でした。画鬼と呼ばれた暁斎は、あらゆるものを描いた生来の絵師で、武四郎から依頼され、武四郎を釈迦に見立てた「武四郎涅槃図」を描いています。

本展では当館所蔵の暁斎の代表作の一つ「地獄極楽めぐり図」を全場面展示するほか、松浦武四郎記念館所蔵の重要文化財、暁斎筆「武四郎涅槃図」と、そこに描かれた「大首飾り」（当館所蔵）をはじめとした武四郎愛玩の品々（武四郎記念館所蔵品と当館所蔵品）を初めて同じ空間で展示し、「武四郎涅槃図」を立体的に再現します。

あわせて、武四郎の生家に伝来した武四郎蒐集の古物の目録である『蔵品目録』掲載の資料で、近年静嘉堂が所蔵することが再認識された古写経類、天神画像など書画類を紹介します。さらに、武四郎のパトロンの一人、川喜田石水（川喜田家第14代）と百五銀行頭取で陶芸家の川喜田半泥子（川喜田家第16代）、三菱第四代社長・静嘉堂初代理事長・岩崎小彌太との関係にもふれ、幕末明治の多才な二人と、彼らを支えた人々の、古物（文化財）への情熱に思いを馳せる機会となれば幸いです。

超・日本刀入門revive　2024年6月22日（土）～8月25日（日）

―鎌倉時代の名刀に学ぶ

国宝　手掻包永《太刀　銘　包永》鎌倉時代　13世紀

重要文化財　古備前高綱《太刀 銘 高綱》鎌倉時代12～13世紀

重要文化財《十二神将立像》
鎌倉時代･安貞2年（1228）頃

かつて世田谷岡本にて人気を博した「超・日本刀入門」が帰ってきました！

武士の魂“日本刀”は、およそ1000年の歴史のなかで、武器として武人を鼓舞し、美術品として鑑賞されてきました。刀剣ブームがすでに定着した今、「全部同じに見える」「どこを見ればいいのか分からない」といった、ますますヒトに聞けない疑問を徹底的解決！

丸の内で初の刀剣展となる本展では、館蔵の国宝・重要文化財刀剣9件をはじめとして、基本中の基本、鎌倉時代を中心とした、平安～南北朝の古名刀を特集します。さらに特別公開として、鎌倉時代の仏像の名品、重要文化財「木造十二神将像」七軀も一堂に会します。

静嘉堂文庫美術館（静嘉堂@丸の内）

2024年 9月～2025年3月展覧会予定

SEIKADO BUNKO ART MUSEUM
静嘉堂@丸の内

〒100-0005 東京都千代田区丸の内2丁目1－1明治生命館1F
TEL.050-5541-8600（ハローダイヤル）
開館時間：10:00～17:00（金曜日は～18:00）（入館は閉館の30分前まで）
休館日：毎週月曜日（祝日の場合は開館し翌火曜日休館） 展示替え期間　年末年始など
入館料：一般1,500円/大高生1,000円/中学生以下無料/障がい者手帳提示の方 700円（同伴者1名無料）
※作品は所蔵館クレジットの記載があるもの以外、すべて静嘉堂文庫美術館蔵です。

特別展
眼福 ―大名家旧蔵、静嘉堂茶道具の粋　2024年9月10日（火）～11月4日（月・祝）

大名物≪唐物茄子茶入 付藻茄子≫
南宋～元時代（13～14世紀）
伝来：足利将軍家…松永久秀－織田信長…豊臣秀吉…秀頼（大坂城で罹災、藤重修復）－徳川家康－藤重藤元（藤重家）…岩崎彌之助－静嘉堂

《猿曳棚（本歌）》（地袋板絵:狩野元信） 室町時代（16世紀）
伝来：武野紹鷗 - 古田織部 - 伊達家茶頭・清水家代々…岩崎彌之助 – 静嘉堂
この棚の「模本」が静嘉堂に3点所蔵され、このたび初公開となる1点は、日本近代画家の巨匠で狩野派絵師でもある橋本雅邦の筆とされるものです。乞期待！

《三島俵形花入》朝鮮時代（15世紀）
伝来：加賀藩主・前田家伝来-岩崎家-静嘉堂

大名物《唐物瓢箪茶入 稲葉瓢箪》
南宋～元時代（13～14世紀）
伝来：淀藩主・稲葉家伝来-岩崎家-静嘉堂

《灰被(はいかつぎ)天目　銘「埋(うずみ)火(び)」》
南宋～元時代13～14世紀）
伝来：小堀遠州-佐倉藩主・堀田家…岩崎家-静嘉堂

静嘉堂所蔵の、岩崎彌之助・小彌太父子によって蒐集された茶道具は約1400件にのぼり、質量ともに優れた作品を所蔵しています。その中で根幹をなすものは、仙台藩主・伊達家、淀藩主・稲葉家、加賀藩主・前田家などの大名家旧蔵の茶道具です。このほか、江戸初期の大名茶人で“きれいさび”と称される美意識をもって、茶道具に新たな評価を与えた小堀遠州、茶器研究の出版など多彩な活動によって名を残した出雲藩主・松平不昧ゆかりの茶道具も公開予定です。
“大名物（おおめいぶつ）”とよばれる、千利休時代以前から評価の高かった唐物茶入7点をはじめ、著名な墨蹟や道具類を精選し、丸の内では初めて、静嘉堂としても8年ぶりとなる茶道具展となる本展で、名品を一堂に公開いたします。
ご鑑賞後に「眼福を得られた」と皆様に感じていただけるよう、岩崎家が静嘉堂に蒐集した格式ある「大名家伝来の名品」を中心に精選し、展示しますのでご期待ください。

平安文学、いとをかし

―国宝「源氏物語関屋澪標図屏風」と王朝美のあゆみ

2024年11月16日（土）～2025年1月13日（月・祝）

国宝　俵屋宗達《源氏物語関屋澪標図屏風》江戸時代・寛永８年（1631年）

国宝
《倭漢朗詠抄　太田切》（部分）
平安時代（11世紀）

土佐光起《紫式部図》（部分）
江戸時代（17世紀）

和歌を書した古筆、源氏物語・平治物語・住吉物語などを主題・意匠にした絵画や工芸品など、平安文学をテーマに日本美術の名品をご覧いただく展覧会です。平安時代から現代まで、人々を魅了し続ける平安文学の世界を、国宝「倭漢朗詠抄 太田切」、国宝 俵屋宗達「源氏物語関屋澪標図屏風」、重文「平治物語絵巻」などの優品から読み解きます。目にも鮮やかな、平安文学と美術のマリアージュをお楽しみください。

豊原国周生誕190年 歌舞伎を描く

―秘蔵の浮世絵初公開！

2025年1月25日（土）～3月23日（日）

豊原国周《九代目市川団十郎の弁慶》
大判錦絵二枚続
明治4年（1871）頃

三代目歌川豊国（国貞）
《梨園侠客伝》目録（右）
「八代目市川団十郎の助六」（左）
大判錦絵揃物　文久3年（1863）

二世鳥居清倍
《山下金作の難津、市川団十郎の佐野源左衛門、松本幸四郎の青砥左衛門》
細判漆絵　享保8年（1723）

静嘉堂では、三菱二代社長の岩崎彌之助の夫人・早苗氏が愛玩した錦絵帖を所蔵し、1996年『静嘉堂文庫の古典籍　第二回　歌川国貞展―美人画を中心に』にて主要作品を紹介しました。2010年、2018年にも展示した、今摺ったような“錦“のごとく美しい「錦絵帖」は、国内外から高く評価されています。本展では、静嘉堂の錦絵コレクションで、初期浮世絵から錦絵時代、幕末明治まで、役者絵の歴史をたどります。幕末明治は錦絵黄金期であり、歌舞伎界では「団菊左」の時代です。浮世絵師の中で最多の役者絵を描いた国貞、そして彼の弟子で明治の写楽と称えられた国周の生誕190年を迎える2025年、秘蔵の国周の錦絵帖も初公開いたします。歌舞伎を描いた多彩な役者絵をご堪能ください。

2024年1月～2025年3月　静嘉堂文庫美術館（静嘉堂@丸の内）展覧会 【広報作品画像データ申請書】
ご申請先：静嘉堂文庫美術館　広報担当　大森　E-mail:press@seikado.or.jp Fax:03－6812－2870

＜画像使用全般に関しての注意＞
●展覧会名、会期、会場名などの開催概要のほか、**指定表記、作家名、作品名、制作年、所蔵元**を必ず掲載してください。
●作品画像は全図で使用してください。原則として文字を重ねる、トリミングなど画像の加工・改変・部分での使用はできません（画像背景を削除するなどは可能です）。
雑誌の表紙などへの使用をご希望の場合はお問い合わせください。
●概要など確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で広報事務局までお送りいただきますようお願いいたします。
●掲載・放送後は必ず、掲載誌・同録DVDを本展広報事務局へ1部ご送付願います。

ハッピー龍イヤー！～絵画・工芸の龍を楽しむ～　2024年1月2日（火）～2月3日（土）　※チラシ掲載の画像を全てご用意できます。ご希望の作品名をお知らせください

岩崎家のお雛さま　2024年2月17日（土）～3月31日（日）

希望	指定表記・作家名・作品名	制作年/制作年代	所蔵元/画像提供元
	五世大木平藏 《岩崎家雛人形》のうち女雛	昭和時代初期（20世紀）	静嘉堂文庫美術館蔵
	五世大木平藏 《岩崎家雛人形》のうち三人官女	昭和時代初期（20世紀）	静嘉堂文庫美術館蔵
	五世大木平藏 《木彫彩色御所人形》のうち「宝船曳」	昭和14年（1939）	静嘉堂文庫美術館蔵
	重要文化財　野々村仁清 《色絵吉野山図茶壺》	江戸時代（17世紀）	静嘉堂文庫美術館蔵
	五世大木平藏 《御所人形　お福の花見》 ※岩崎家旧蔵品	昭和時代（20世紀）	丸平文庫蔵
静嘉堂文庫竣工100年・特別展　画鬼 河鍋暁斎×鬼才 松浦武四郎―「地獄極楽めぐり図」からリアル武四郎涅槃図まで　2024年4月13日（土）～6月9日（日）			
	重要文化財　河鍋暁斎 《武四郎涅槃図》	明治19年（1886）	松浦武四郎記念館蔵
	《大首飾り》	縄文時代～近代	静嘉堂文庫美術館蔵
	河鍋暁斎 《地獄極楽めぐり図》 ※会期中場面替えあり	明治2～5年（1869～72）	静嘉堂文庫美術館蔵
超・日本刀入門revive ―鎌倉時代の名刀に学ぶ　2024年6月22日（土）～8月25日（日）			
	国宝　手掻包永《太刀　銘　包永》	鎌倉時代（13世紀）	静嘉堂文庫美術館蔵
	重要文化財　古備前高綱《太刀 銘 高綱》	鎌倉時代（12～13世紀）	静嘉堂文庫美術館蔵
	重要文化財 《十二神将立像》	鎌倉時代・安貞2年（1228）頃	静嘉堂文庫美術館蔵
特別展　眼福 ―大名家旧蔵、静嘉堂茶道具の粋　2024年9月10日（火）～11月4日（月・祝）			
	大名物≪唐物茄子茶入 付藻茄子≫	南宋～元時代（13～14世紀）	静嘉堂文庫美術館蔵
	《猿曳棚（本歌）》（地袋板絵:狩野元信）	室町時代（16世紀）	静嘉堂文庫美術館蔵
	《三島俵形花入》	朝鮮時代（15世紀）	静嘉堂文庫美術館蔵
	大名物《唐物瓢箪茶入 稲葉瓢箪》	南宋～元時代（13～14世紀）	静嘉堂文庫美術館蔵
	《灰被天目　銘「埋火」》	南宋～元時代（13～14世紀）	静嘉堂文庫美術館蔵
平安文学、いとをかし ―国宝「源氏物語関屋澪標図屏風」と王朝美のあゆみ　2024年11月16日（土）～2025年1月13日（月・祝）			
	国宝　俵屋宗達 《源氏物語関屋澪標図屏風》	江戸時代・寛永8年（1631）	静嘉堂文庫美術館蔵
	国宝 《倭漢朗詠抄　太田切》（部分）	平安時代（11世紀）	静嘉堂文庫美術館蔵
	土佐光起 《紫式部図》（部分）	江戸時代（17世紀）	静嘉堂文庫美術館蔵
豊原国周生誕130年　歌舞伎を描く ―秘蔵の浮世絵初公開！　2025年1月25日（土）～2025年3月23日（日）			
	豊原国周 《九代目市川団十郎の弁慶》	明治4年（1871）頃	静嘉堂文庫美術館蔵
	三代目歌川豊国（国貞）《梨園侠客伝》目録・「八代目市川団十郎の助六」	文久3年（1863）	静嘉堂文庫美術館蔵
	二世鳥居清倍 《山下金作の難津、市川団十郎の佐野源左衛門、松本幸四郎の青砥左衛門》	享保8年（1723）	静嘉堂文庫美術館蔵

ご住所	〒
社名/媒体名	社名　　媒体名
ご所属/ご担当者名	ご所属　　ご担当者名
TEL/FAX	TEL　　FAX
E-mail	
掲載号／発売予定日	月号（　　月　　日号）／　　月　　日発売予定　（発行部数　　部）　☐ WEBへの転載あり